【第1問】 下記の資料を基に、問1~問2について解答しなさい。

(2016年1月)

<福岡家の家族データ>

| 氏 | 名 | 続柄 | 生年月日 | 備考 |
|----|----|----|------------|-----|
| 福岡 | 貴司 | 本人 | 昭和40年12月4日 | 会社員 |
| | 宏美 | 妻 | 昭和43年4月25日 | 主婦 |
| | 翔 | 長男 | 平成5年10月18日 | 会社員 |
| | 美月 | 長女 | 平成7年5月16日 | 学生 |

- ※ 長男の翔さんは就職を機に独立し、別居している。
- ※ 長女の美月さんの就職後は、基本生活費は236万円から190万円(いずれも現在価値) に減る。

<福岡家のキャッシュフロー表>

(単位:万円)

| く田岡水グイイノンエノロ ひと | | | | | | (4 | □ [元 ·)21 11) |
|-----------------|-------------|------|------|------|------|------|----------------|
| 経過年数 | | | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| 西暦(年) | | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | |
| | 平成(年) | | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 |
| 家族 | 福岡 貴司 | 本人 | 51歳 | 52歳 | 53歳 | 54歳 | 55歳 |
| 構成 | 宏美 | 妻 | 48歳 | 49歳 | 50歳 | 51歳 | 52歳 |
| F #A | 翔 | 長男 | 23歳 | 24歳 | 25歳 | 26歳 | 27歳 |
| 年齢 | 美月 | 長女 | 21歳 | 22歳 | 23歳 | 24歳 | 25歳 |
| = | 171×1 | | 翔 | 銀婚式 | 美月 | 自動車の | |
|) | ライフイベント | | 就職 | 海外旅行 | 就職 | 買換え | |
| 収入 | 給与収入(夫) | 1% | 597 | 603 | 609 | 615 | 621 |
| 1111 | 収入合計 | _ | 597 | 603 | 609 | 615 | 621 |
| | 基本生活費 | 2% | 236 | 241 | 198 | | (ア) |
| | 住居費 | _ | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 |
| | 教育費 | _ | 110 | 110 | | | |
| 支出 | 保険料 | _ | 46 | 46 | 34 | 34 | 34 |
| | 一時的支出 | _ | | 100 | | 200 | |
| | その他支出 | 1% | 20 | 20 | 20 | 21 | 21 |
| | 支出合計 | _ | 562 | 667 | 402 | 607 | |
| 年間収支 一 | | 35 | ▲64 | 207 | | | |
| 金融資産残高 | | 1% | 508 | (イ) | | | |

- ※ 年齢は各年12月31日現在のものとし、平成28年を基準年とする。
- ※ 給与収入は手取り額で記載している。
- ※ 記載されている数値は正しいものとする。
- ※ 問題作成の都合上、一部を空欄にしてある。

問1

福岡家のキャッシュフロー表の空欄(ア)に入る数値を計算しなさい。なお、計算に当 たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満 を四捨五入すること。また、解答に当たっては、解答欄に記載されている単位に従うこ と。

解答欄

(万円)

問2

福岡家のキャッシュフロー表の空欄(イ)に入る数値を計算しなさい。なお、計算に当 たっては、キャッシュフロー表中に記載の整数を使用し、計算結果については万円未満 を四捨五入すること。また、解答に当たっては、解答欄に記載されている単位に従うこ と。

> 解答欄 (万円)

提案業務

【第2問】 次の問1~問2について解答しなさい。

問1

ファイナンシャル・プランニング・プロセスの順序に従い、次の(r)~(t)を作業順に並べ替えたとき、その中で4番目となるものはどれか。

(2014年1月)

- (ア) 顧客のプランを実現するために、金融商品等の購入、相続の準備等の実行支援を 行う。
- (イ) 顧客に対して、FPから提供するサービスの内容の説明を行う。
- (ウ) 顧客の家族の状況等から、キャッシュフロー表等を作成し、顧客の資産および負債の状況を把握する。
- (エ) 顧客の家族構成や収入・支出情報のほか、顧客の将来の希望等を、面談等によって確認する。
- (オ) 顧客の資産状況や将来の目標・希望等を踏まえ、提案書を作成する。

問2

ファイナンシャル・プランニングの6つのステップにおける、第2ステップ「顧客データの収集と目標の明確化」において収集する顧客のデータに関する次の記述の空欄(ア)~(ウ)にあてはまる語句の組み合わせとして正しいものはどれか。

(2011年5月)

- ・収集すべき顧客データとしては、定性的情報と定量的情報がある。定量的情報の例 としては、(ア)等が該当する。
- ・情報収集の方法として、面談によるものと質問紙によるものがあるが、面談においては、(イ)より(ウ)の収集がより適しているといえる。
- 1. (ア)生活目標 (イ)定量的情報 (ウ)定性的情報
- 2. (ア)生活目標 (イ)定性的情報 (ウ)定量的情報
- 3. (ア)預金残高 (イ)定量的情報 (ウ)定性的情報
- 4. (ア)預金残高 (イ)定性的情報 (ウ)定量的情報

【第3問】

下記[資料1]~[資料3]をもとに、現時点(平成28年9月1日時点)における北村さん夫婦 (正明さんと芳恵さん)のバランスシート分析を行うこととした。下表の空欄(ア)に入る 数値を計算しなさい。

(2015年9月)

<北村さん夫婦(正明さんと芳恵さん)のバランスシート>

(単位:万円)

| [資産] | | [負債] | |
|----------------|------------------------|----------|------------------------|
| 金融資産 | | 住宅ローン | $\times \times \times$ |
| 預貯金等 | $\times \times \times$ | 負債合計 | ××× |
| 株式等 | $\times \times \times$ | 具頂百司 | ^ ^ ^ |
| 生命保険(解約返戻金相当額) | $\times \times \times$ | | |
| 不動産 | | 純資産 | (ア) |
| 土地・建物(自宅) | $\times \times \times$ | | ()) |
| その他(動産等) | ××× | | |
| 資産合計 | ××× | 負債・純資産合計 | ××× |

[資料1:保有資産(時価)]

(単位:万円)

| | 正明 | 芳恵 |
|----------------|----------|----------|
| 金融資産 | | |
| 預貯金等 | 1,350 | 140 |
| 株式等 | 640 | |
| 生命保険(解約返戻金相当額) | [資料3を参照] | [資料3を参照] |
| 不動産 | | |
| 土地・建物(自宅) | 1,000 | |
| その他(動産等) | 240 | 100 |

「資料2:負債残高」

住宅ローン:800万円(債務者は正明さん。団体生命保険付き)

[資料3:生命保険(定期保険特約付終身保険A)]

| 保険種類 | 保険 契約者 | 被保険者 | 死亡保険金 受取人 | 保険金額 | 解約返戻金 相当額 | 保険期間 |
|--------|-----------|------|--------------|-------|--------------|---------|
| 終身保険部分 | 正明 | 正明 | 芳恵 | 300 | 150 | 終身 |
| 定期保険部分 | 正明 | 正明 | 芳恵 | 3,000 | _ | 平成32年まで |

注1:解約返戻金相当額は、現時点(平成28年9月1日時点)で解約した場合の金額です。

注2:保険契約者が保険料を負担している。

【第4問】 次の問1~問8に答えなさい。なお、解答に当たっては下記の係数早見表を使用し、税金は一切考慮しないこととする。また、計算結果は円未満を四捨五入すること。

<係数早見表(年利1.0%)>

| | 終価係数 | 現価係数 | 減債基金係数 | 資本回収係数 | 年金終価係数 | 年金現価係数 |
|-----|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| 10年 | 1.105 | 0.905 | 0.096 | 0.106 | 10.462 | 9.471 |
| 15年 | 1.161 | 0.861 | 0.062 | 0.072 | 16.097 | 13.865 |
| 20年 | 1.220 | 0.820 | 0.045 | 0.055 | 22.019 | 18.046 |

(2015年9月その他)

問1

川野さんは、住宅の改築費用として、10年後に1,000万円を準備したいと考えている。 10年間、年利1.0%で複利運用する場合、現在いくらの資金があればよいか。

問2

細川さんは、老後資金として、毎年年末に100万円を受け取りたいと考えている。受取り期間を15年間とし、年利1.0%で複利運用する場合、受取り開始年の初めにいくらの資金があればよいか。

問3

青山さんは、これまでに老後の生活資金の一部として積み立てた3,000万円の資金を有している。これを20年間、年利1.0%で複利運用しながら毎年年末に均等に取り崩す場合、毎年年末に受け取ることができる金額はいくらになるか。

問4

山田さんは、開業用の資金の一部として、これから毎年年末に1回ずつ一定金額を積み立てて、10年後に2,000万円を準備したいと考えている。年利1.0%で複利運用した場合、毎年いくらずつ積み立てればよいか。

問5

杉山さんは、早期退職時に受け取った退職金1,000万円を老後の生活資金として使用する予定である。これを15年間、年利1.0%で複利運用した場合、15年後の合計額はいくらになるか。

問6

松尾さんは、老後の生活資金の準備として、毎年年末に100万円を積み立てる予定である。これを15年間、年利1.0%で複利運用する場合、15年後の合計額はいくらになるか。

問7

増田さんは、住宅購入資金として、2,000万円を借り入れることを考えている。これを今後20年間、年利1.0%で毎年年末に元利均等返済をする場合、毎年の返済額はいくらになるか。

問8

長沢さんは、現在100万円の現金を金庫に保管している。インフレ(物価上昇率)が年 平均1.0%の下では、10年後にこの現金の実質価値はいくらになるか。

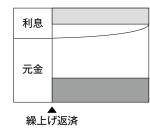
【第5問】

下記の図は、住宅ローンの繰上げ返済(一部繰上げ返済)のイメージ図である。仮に、 元利均等返済の住宅ローンについて「返済額軽減型」で繰上げ返済を行った場合、これを 表すイメージ図として、最も適切なものはどれか。

なお、繰上げ返済は元金分に充当するものとし、図中の縦軸は毎回の返済金額、横軸は返済期間、網かけ部分() は繰上げ返済する元金部分または軽減される利息を表示している。

(2014年9月)

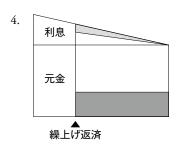
1.



2. 利息 元金 繰上げ返済

利息 元金

> ▲ 繰上げ返済



【第6問】

大原さんは、平成28年8月に胆石の手術で3日間入院した。大原さんの平成28年8月の1ヵ月間における保険診療分の医療費(窓口での自己負担分)が15万円であった場合、高額療養費として支給される額(多数該当は考慮しない)として、正しいものはどれか。なお、大原さんは全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぽ)の被保険者であり、大原さんの標準報酬月額は34万円であるものとする。また、「健康保険限度額適用認定証」の提示はしていないものとする。

(2015年9月)

<高額療養費の算定>

| | ※ロでの自己負担分 15万円 | | | | | |
|------------------------|-------------------|---------|--|--|--|--|
| 協会けんぽが負担(療養の給付) | 高額療養費 | 自己負担限度額 | | | | |
| 4 1ヵ月当たりの総医療費(保険診療分) → | | | | | | |

<医療費の1ヵ月当たりの自己負担限度額(70歳未満の人)>

| | · |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 所得区分 | 自己負担限度額(月額) |
| ① 標準報酬月額 83万円以上 | 252,600円 + (総医療費 - 842,000円) × 1% |
| ② 標準報酬月額 53万円~79万円 | 167,400円 + (総医療費 - 558,000円) × 1% |
| ③ 標準報酬月額 28万円~50万円 | 80,100円 + (総医療費 - 267,000円)×1% |
| ④ 標準報酬月額 26万円以下 | 57,600円 |
| ⑤ 低所得者 (住民税非課税者等) | 35,400円 |
| | • |

- 1. 92,400円
- 2. 82,430円
- 3. 67,570円
- 4. 35,400円

194

【第7問】

馬場和美さん(昭和28年10月12日生まれ)が63歳到達月に老齢基礎年金の支給繰上げの 請求をした場合、63歳時に受け取る繰上げ支給の老齢基礎年金の額として、正しいもの はどれか。

(2015年1月)

「和美さんの国民年金保険料納付済期間」

昭和54年10月~平成25年9月:408月

※ このほかに保険料納付済期間はなく、保険料免除期間もないものとする。 [その他]

- ・老齢基礎年金の額(満額):780,100円(平成28年度価格)
- ・和美さんの加入可能年数:40年
- ・繰上げ支給の減額率:0.5%×繰上げ請求月から65歳に達する月の前月までの月数
- ・振替加算は考慮しないものとする。
- 年金額の端数処理

年金額の計算においては円未満を四捨五入するものとする。

- 1. 551,687円
- 2. 583,515円
- 3. 663,085円
- 4. 686,488円

【第8問】

富士雄さんが在職中の現時点(45歳)で死亡した場合、富士雄さんの死亡時点において 秋江さんが受給できる公的年金の遺族給付の額として、正しいものはどれか。なお、富 士雄さんは大学卒業後の22歳から死亡時まで継続して厚生年金保険に加入しているもの とし、記載以外の遺族給付の受給要件はすべて満たしているものとする。また、遺族給 付の額の計算に当たっては、下記<資料>の金額を使用することとする。

(2015年5月)

| 氏名 | 続柄 | 生年月日 | 年齢 | 備考 |
|--------|----|-------------|-----|----------|
| 大津 富士雄 | 本人 | 昭和46年10月12日 | 45歳 | 会社員(正社員) |
| 秋江 | 妻 | 昭和45年12月22日 | 46歳 | パート勤務 |
| 早苗 | 長女 | 平成11年11月25日 | 17歳 | 高校3年生 |

<資料>

・遺族厚生年金の額:600,000円

・中高齢寡婦加算額:585,100円(平成28年度価額)・遺族基礎年金の額:780,100円(平成28年度価額)

・遺族基礎年金の子の加算額

第1子・第2子(1人当たり):224,500円(平成28年度価額)

- 1. 1.185,100円
- 2. 1,380,100円
- 3. 1,604,600円
- 4. 1,965,200円

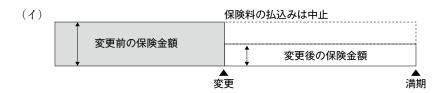
196

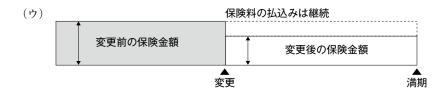
【第9問】

下記(r)~(r)0、養老保険について、従来の保険料を払い続けることが困難になった場合に、解約をせずに保険契約を継続する方法の仕組みを図で表したものである。(r)~(r)0の仕組み図と契約継続方法の組み合わせとして正しいものはどれか。

(2013年1月)







- 1. (ア)払済保険 (イ)延長(定期)保険 (ウ)自動振替貸付
- 2. (ア)延長(定期)保険 (イ)払済保険 (ウ)減額
- 3. (ア)延長(定期)保険 (イ)払済保険 (ウ)自動振替貸付
- 4. (ア)払済保険 (イ)延長(定期)保険 (ウ)減額

【第10問】

下記のイメージ図のうち、定期保険の解約返戻金相当額の推移に係るイメージ図を選びなさい。なお、下記の図は、定期保険、終身保険、養老保険、定額個人年金保険のいずれかである。

(2014年9月)

